

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 8月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	0176000081		
法人名	クリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホーム たんぽぽ新館		
所在地	三笠市高美町444番地 (電話) 01267-2-7740		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年7月29日	評価確定日	平成21年8月27日

【情報提供票より】 (21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 7月 29日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000円	その他の経費(月額)	光熱水費16,000円 暖房費10月販売価格×90% (10~4月)
敷金	有(32,000円)・無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100円		

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	4名	要介護2	0名
要介護3	4名	要介護4	0名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 83.4歳	最低 74歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立三笠総合病院、中塚歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはバリアフリーに配慮された清潔で明るい居住環境のもと、厚い人員態勢によるきめ細かな支援を展開しています。消防署や社会福祉協議会、ボランティア等の地域資源を有効活用して運営に活かすと共に、協力医以外にも往診医を確保する等医療面の支援も行き届いています。ケアサービスの質の向上に向けて積み重ねた研修は、ターミナルケアの実施、利用者・家族の希望に沿う柔軟な支援に結びついています。季節毎のレクリエーションや地域行事への参加、利用者一人ひとりの能力を引き出すサークル活動や趣味活動の支援にも積極的で、施設長、管理者、職員が一丸となって理念に基づいたケアの実現に熱意を持って取り組んでいます。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題として挙げられた、運営推進会議への行政職員の参加要請、家族からの意見収集への積極的働きかけについては、管理者・職員の取り組みにより改善されています。その他の課題についても、改善に向けた取り組みが継続されています。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を踏まえて、職員全員が個々に日頃のケア実践を振り返りつつ自己評価に取り組んでいます。職員会議で、それぞれの意見を取りまとめながら新たな気づきを共有し、より良いケアに繋げて行こうとする意欲が伺えます。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、地域包括支援センターのセンター長、町内会役員、家族・利用者代表が参加し、2ヵ月毎に行われています。ホームの運営・活動状況や制度改正について報告すると共に、参加委員からも感染症への対応策に関する質問や利用者の見守り態勢についての意見が出され、活発な協議が展開されています。地域の協力をいただいている見守り態勢が強化されるなど、サービスの向上に活かしています。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族に対してはきめ細かな報告を毎月行ない、日頃の様子を伝えて不安の軽減に努めています。常に家族が意見・要望を表出しやすい雰囲気作りに努め、出された意見・要望等は連絡ノートに記録して職員間への周知を図っています。必要に応じて職員会議の議題として対応策を検討し、ケアに反映させています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>市民コンサート・幼稚園運動会への参加、町内会行事の盆踊りや地域清掃への参加を通して、活発な地域交流が図られています。また、ボランティアの定期訪問(生け花ボランティア)や地域の子ども・住民がホーム行事「ミニ縁日」に訪れることも利用者の地域との関わりを深める機会となっています。出かけたり迎えたりという交流を積み重ねながら、地域との連携強化を図っています。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい生活支援」・「住み慣れた地域、家族とのつながり」をキーワードにしたホーム独自の介護理念を職員全員の意向をまとめて作り上げ、具体的なケアの指針を作成して実践につなげています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やミーティングにおいて利用者の支援を話し合う際には、理念に立ち戻ってケアの方向性を確認し、職員全員で方針を共有しながら実践に活かしています。職員採用時には欠かさず理念の理解を促しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市民コンサート・幼稚園運動会への参加、町内会行事の盆踊りや地域清掃への参加を通して、活発な地域交流が図られています。ボランティアの訪問、地域の子ども達・住民がホーム行事に訪れることも利用者にとって楽しみな交流機会となっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は評価の意義を十分理解しており、前回の評価結果を踏まえながら職員全員がそれぞれ日々のケア実践を振り返りつつ、自己評価に取り組んでいます。前回指摘された項目については職員全員が真摯に受けとめ、具体的な改善に繋がっています。		

三笠市 グループホーム たんぽぽ新館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域包括支援センターのセンター長、町内会役員、家族・利用者代表が参加し2ヵ月毎に行なわれています。ホームの運営・活動状況や制度改正について報告すると共に、参加委員からも感染症への対応策や利用者の見守り態勢に関する質問・意見が出され、協議・協力をいただいでサービスの向上に活かしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームに隣接して市の分室「ふれあいセンター」があり、行事への参加、華道ボランティアとしての訪問など、活発な交流が図られています。地域における認知症理解の推進・サービスの質の向上に向けて、情報を共有しながら共に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子は、毎月発行される通信、金銭管理報告、受診状況・健康状態等を記載した報告書に写真を添えて送付しています。家族には月一度、ホームを訪問して戴くように促して利用者の様子を詳しく伝える機会とし、緊急時の電話連絡はその都度迅速に行なっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部・外部の苦情相談窓口の明示、苦情受け付けポストの設置に加えて、常に家族が意見・要望を表出しやすい雰囲気作りに努めています。出された意見・要望等は連絡ノートに記録して周知すると共に、ミーティングで取り上げてケアに反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交代による利用者への影響を最小限に抑えるために、交代前に十分な引き継ぎ期間を設けています。新規職員は利用者との関係形成が十分構築されるまでは日勤で勤務し、徐々に夜勤シフトに組み入れるなど、利用者との馴染みの関係を重視した支援に努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成への意識は高く、段階に応じた計画的な外部研修の受講と報告書による研修内容の周知が図られています。毎月行なわれる内部研修では、権利擁護や制度を含めた多岐にわたる研修が実施されており、職員の知識・スキルの向上に取り組んでいます。資格取得をバックアップする資金援助も行なっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	空知管内のグループホーム協議会に加入し、研修会や講演等に参加してネットワーク作りや交流する機会を設けています。系列ホーム以外との相互訪問は企画段階にあり、実現に向けて準備中です。	○	管内同業者との相互訪問を実施し、職員が他ホームのケア実践に触れ、そこから学びや気づきを得てサービスの質の向上に活かす企画を検討中です。実現への取り組みに期待します。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族が納得して利用できるように、事前に見学やお茶会に参加してホームの雰囲気に触れる機会を設けています。ショートステイ先・医療機関から急遽利用に至る場合には、事前に利用者を訪問し、顔馴染みの関係を作っています。入居後はきめ細かな対応で、不安の軽減を図っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、利用者は職員をねぎらいながら、互いに支え合う関係を構築しています。料理・編み物・裁縫その他の趣味活動、人生経験で得られた知識や知恵を職員が教えられる場面も多く、生活を共に楽しみながら互いに尊重し合う関係性の中で支援がなされています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりに応じた丁寧な声かけや微妙な表情変化に注意を払うことで、思いや意向の把握に努めています。意思疎通が困難な場合には、家族からの情報や日頃の気づきを記録してアセスメントを重ね、利用者本位に検討して希望に沿う暮らしの支援に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	記録をもとに担当者と計画作成者がケース会議を行ない介護計画原案を作成した上で、看護師を含む職員全員が意見交換しながら、一人ひとりの介護計画を作成しています。日頃から家族の意見・要望の聴取に努め、それらを具体的に取り入れた介護計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の長期目標は最長6ヵ月で作成され、期間毎に評価・見直しが行なわれています。入院等の状況変化があった場合には、その都度医師や看護師、家族の意見・要望を反映しながら、現状に即した計画へと変更されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携による日常の健康管理、歯科を含む訪問診療、訪問看護、家族の状況に応じた通院送迎など、医療面で充実かつ柔軟な支援が行なわれています。また、行きつけの理容院への送迎等利用者の一人ひとりの希望にも柔軟に対応しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの希望に応じたかかりつけ医の受診、往診医の確保など、適切な医療支援がなされています。看護職員の配置、訪問看護師（週2回）による状態観察など、日常的な健康管理にも配慮しています。また、家族の同意をいただいて個別の医療ノートを作成し、医療機関への情報提供が迅速に出来るよう準備しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、家族と協議しながら、利用者の意向に沿った方針の共有に努めています。また、状況に応じて「終末期生活支援に関する覚書」を利用者・家族と取り交わしていますが、すべての利用者・家族への説明・同意にまでは至っていません。	○	利用者の急変・緊急時の対応に備え、出来るだけ早い段階からすべての利用者・家族との間で「終末期生活支援に関する覚書」を説明したり、取り交わしたりする機会を設けることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しみのある関係性を築きながらも、利用者一人ひとりの尊厳に配慮した接遇に努めています。記録の保管場所や保管方法、面会記録にも配慮して個人情報の保護を徹底しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者本位のケアに取り組み、自己選択・自己決定の場面を出来るだけ作る支援に努めています。アクティビティへの参加や散歩、入浴への希望、起床や就寝時間、食事のペースなど、利用者一人ひとりの希望やペースに応じた暮らしの支援に努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は買物から献立、調理、後片づけに至るまで、利用者と職員が協働して行なっています。季節感を取り入れた献立（土用の丑の日は鰻等）、外食や行事食、ホーム内でのバーベキュー、居酒屋風夕食など、変化や楽しみのある食事場面を工夫しています。咀嚼嚥下機能に応じた調理法・さりげない介助で、安全への配慮も行き届いています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて、毎日入浴できる体制となっています。利用者の体調に注意しながら、季節柄できるだけ一日おきに入浴していただくよう声かけしています。入浴に抵抗のある利用者には声かけやタイミングを工夫して、きめ細かい支援を行なっています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者主体のサークル活動（カラオケ、パークゴルフ）、山菜採りや手芸、家事参加等利用者が得意分野で力を発揮したり楽しんだりできるよう支援し、生きがいや張りのある暮らしを支えています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買物外出、天気の良い日には散歩やドライブなど、その日の体調や希望に沿って、臨機応変に外出支援を行なっています。地域のコンサートや盆踊り、幼稚園運動会への参加、お花見、パークゴルフ、カラオケなどのレクリエーション外出も支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することの弊害を理解し、日中は施錠していません。注意が必要は利用者に対しては職員の見守り強化や居場所の確認を徹底しています。SOSネットワークの活用、地域住民の協力体制整備で利用者の安全確保に努めながら、自由な暮らしを支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、避難訓練を実施し利用者の避難経路・誘導方法の確認を行なっています。緊急連絡網の整備・近隣施設、住民との連携体制も構築されつつあります。しかし、夜間を想定した訓練はまだ実施されていません。	○	火災だけでなくあらゆる災害を想定した広域避難場所の確認、物品の備蓄確認及び夜間を想定した避難訓練の実施が期待されます。また、避難訓練時の反省点を記録し、今後の訓練に活用する取り組みを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個別に記録し、脱水症状を起こさないように職員間で情報を共有しています。毎月の体重と付き合わせながら、バランスの取れた献立作成に努めていますが、管理栄養士等からの助言を受ける機会には恵まれていません。	○	利用者の好み、咀嚼嚥下機能を勘案した献立は利用者の大きな楽しみとなっていますが、糖尿食対象者など特別な配慮が必要な場合もあり、専門職から献立作成への助言を受けることが期待されます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はバリアフリーで、浴室・トイレも清潔に保たれています。季節感のある生け花や装飾品も落ち着いた雰囲気を出しています。利用者が寛げるお気に入りの場所は居間だけでなく、通路奥の窓際にも設けられ、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの生活用品や仏壇・家具等が自由に持ち込まれ、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮されています。家族写真や思い出の品に囲まれて手芸やパソコン等、それぞれの趣味を楽しめる快適な居住空間となっています。		

※ は、重点項目。